

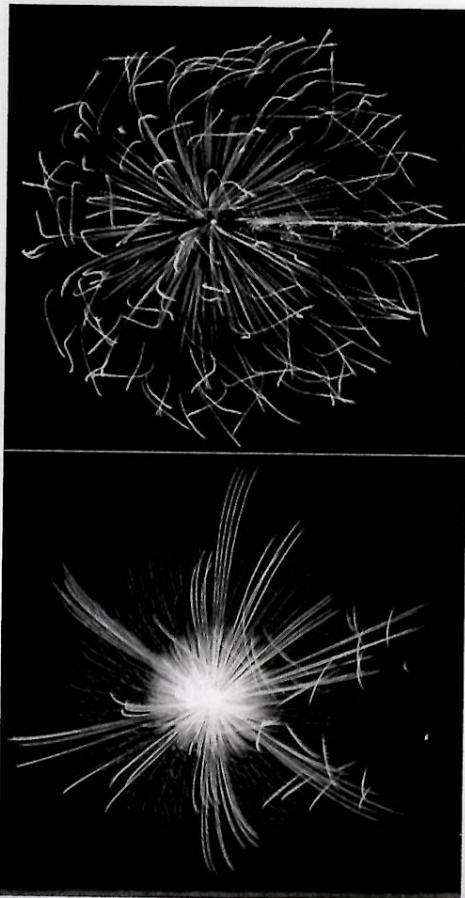
うかに影響する。花火の完成度は、色の変化の多さだけではなく、理想の色に見えるか、また、足並みがそろって同時に変化しているかが重要だ。

花火が消える時には、全ての星が一つも残らず一齊に燃え尽きて、全体が一瞬で消えるのが理想で、「消え口がよい」と評価する。消え際のよい花火は強烈な余韻を残し、開いている時の華やかさとの落差が、より鮮烈な印象とはかなさを見る者的心に焼き付ける。花火師が丹精をこめて作った花火は、こうして夜空で咲き、消え去る時によく完結する芸術となるのだ。

総論

新しい日本の花火について

現在の花火大会では、一発のできばえはもちろんのこと、それを連続して打ち上げる時の組み合わせやリズムといった演出面も、観客を楽しませるという観点から重要な要素となっている。さらに、追い求めってきた丸く開く花火だけでなく、その技術をもとに、さまざまな形やこれまでにない動きをする花火も生み出され続けている。



星の配置や動きを工夫した新しい花火の例

こうして、熟練された花火師によって作られる日本の花火は、世界に誇ることのできる水準となっている。だが、誰もがその仕組みや価値を確認するために、花火を見ているわけではないだろう。花火は、大きな音とともに華やかに夜空に咲き、その直後には跡形もなく消えてなくなってしまう。その印象が、心の中にのみ残るので、人々は何度も見たいと思うのだろう。その一瞬の成果の背後には、花火師たちの高い技術が隠されている。古来より、情緒、風情といった感覚をよく理解し、求める日本人にとって、華やかさとはかなさと同時に味わえる花火は、実に琴線にふれる、味わいに富んだ芸術なのだと思う。

「ニヤバ日本人にとってとても
重要なこと！
「ねがつとも同時に味わう！」

華 韻

8 6 4 意 余韻
回 順 はかな
完結

誇

1 琴 熟練
6 6 1 意 情緒
6 風情



小野里公成〔一九五七〕

東京都に生まれた。写真家。デザイナー。

著書に『花火百華』『日本の花火』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。